

平成三十一年一月投句

灯消し鶯替いよよ始まりぬ

補ひてともに健やか寝正月

境内に声かけ合ふて鶯替へて

節子

ぬた場らし跡の乾けり寒施行

真理子

初めての餅と喜ぶ礼者かな

まつさらの十年開く初日記

偶然を装ひ二人初詣

浮子に乗る鶉に迫りゆく鴨の陣

傷心の行く山道に冬苺

勝利

鬼すべの松明を曳く煤の顔

由紀子

御降や独り住まひに音もなく

写楽絵の目ほどふくらみ芽水仙

年ごとに願ひつましく初明り

初明り素直な心持ちて句を

光子

夢に覚めしんしんと聞く雪の音